

長期安全性(合併症の無い)と長期信頼性(耐久性)が課題

- 2010年7月に改正臓器移植法が制定され、年間30例程度の心臓移植が実施されるようになった。
- しかし、ドナー不足が原因で心臓移植待機者数は200人を超えており、患者は依然として長期間待機(2年以上)を余儀なくされている。
- 人工心臓特有の合併症(感染症など)や装置故障によるポンプ交換等で多大な医療コストが発生している。

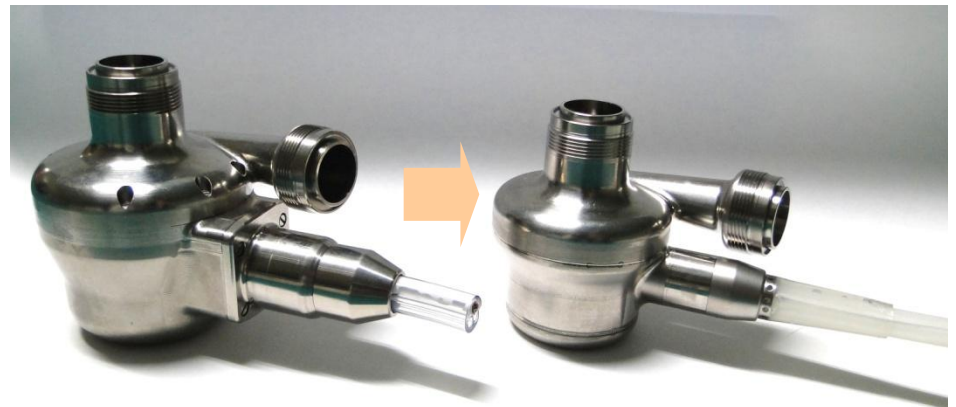
移植を前提としない循環補助治療手段への適用を目指して

- 移植を前提とした治療に利用される体内植込み型補助人工心臓「EVAHEART」(現行品)の血液ポンプの体積化74%、軽量化71%、最大外形比86%を実現。
- 10年以上ポンプ交換を必要としない軸受・血液シール機構の実現。
- ケーブルと皮膚・筋肉組織との結合力を強化し、細菌感染の危険性を低減。

サンメディカル:高度なものづくり技術を活かした事業展開

人工心臓の研究開発を15年間に渡り行い、「EVAHEART」の製造販売業許可を取り、製品化に結びつけた。国内唯一の人工心臓製造販売メーカー。
大学等と共同開発を促進し海外展開を計画中(長野県諏訪市、資本金 4.5億円、従業員数 52人)

従来ポンプ



高いポンプ性能は同一で
大幅なダウンサイジング